

マイナ保険証 資格確認システム

本紙が報道

本紙が4日付で報じた千葉市国民健康保険に加入する男性(72)の窓口負担割合が、紙の保険証は3割なのに、マイナ保険証などを使った「オンライン資格確認」システムに2割と登録されていた問題で、千葉市はオンライン資格確認の登録が誤りだったと本紙に19日までに認めました。資格確認に使う「国保情報集約システム」に同市が誤ったデータを送信していたことが原因でした。

負担割合ミス 千葉市認める

千葉市健康保険課によると当該男性(同市緑区)は昨年8月以降3割負担でしたが、妻が5月に70歳になりました。70歳以上の世帯人数増にともない緑区の担当課が所得を確認して6月から2割負担になると判断し、市国保システムにその旨記入しました。ところがその後、市税事務所が収入情報を確認したところ

紙の廃止は大混乱

保険証とオンライン資格確認で負担割合の違いが発覚したドクターケンクリニック(同市緑区)院長の中村健一医師の話 患者さんが保険証を持ってきていたので負担割合の違いに気づきました。保

3割負担と判明、3割と再記入しました。同市の国保実務はこれまで同システムの最終更新情報が正しいとされており、職員は先に登録した情報を無効化せず再記入していました。必ず無効化する定めありませんでした。

ところが、オンライン資格確認に使う「国保情報集約システム」に同市が送信するデータは、「負担割合に変更があった場合の最終情報」を送信する仕様となっていました。保険証がなければ分かりませんでした。これは氷山の一角です。保険証を廃止したら大混乱になるのは目に見えています。マイナ保険証、オンライン資格確認は運用をいったん停止し総点検するとともに、政府は保険証の廃止方針を撤回するべきです。

同市はこうしたシステムの仕様を知らず誤りが生じた形です。同市は今後、収入情報を確認してから負担割合を入力する▽誤って入力した場合、前に入力したデータを無効化して新しい情報を入力する一の対策を取るとしています。同課は本紙報道後の7月10日、資格情報を訂正したとしますが6月から40日間にわたって誤った負担割合がオンライン資格確認に登録されていたことになり極めて重大です。

同市健康保険課によると、同様の事情で本来2割負担が3割と登録されていた事例が稲毛区に1件発見されたとしています。ほかにも誤りがある可能性は否定できないとしています。

(内藤真弓子)